

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ヒトツナ上新庄教室		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な資格および実務経験を有する職員が在籍しており、多角的な視点から児童一人ひとりに応じた支援を行うことができている。	日々の振り返りを通して、多職種の視点から支援の方針を検討している。職員間でアセスメントを共有し、支援の一貫性を保つことを意識している。	職員の専門性向上を目的とした内部研修および外部研修への参加を継続的に実施し、支援の質をさらなる向上を図る。
2	5領域を意識したプログラムを作成し、活動を通して楽しみながら成功体験を積み重ねられる支援を実施している。	5領域の視点をもとに活動内容を検討し、児童の発達段階に応じて難易度や参加方法を調整している。	サービス提供記録において、児童の成長や変化を継続的に把握できる仕組みの整備を進める。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	必要に応じて専門機関と連携しているが、連携体制のさらなる強化について検討している。	依頼型の連携が中心となっており、定期的な情報交換の機会が限られている。	必要時のみならず継続的な情報交換の機会を検討している。
2	活動空間を有効活用して支援を行っているが、個別での取り組みができる環境設定のさらなる工夫について検討している。	空間がオープンな構造であり、視覚・聴覚刺激が受けやすい環境になっている。	パーティションや机配置を工夫し、反個室的な空間を確保している。
3	避難訓練を定期的実施しているが、アンケート結果から実施状況の認知が保護者に十分に伝わっていない。	避難訓練は計画的に実施しているが、その取り組みの周知方法に改善の余地がある。	訓練内容や目的を具体的に共有し、情報発信の在り方を検討していく。